

令和3年度舞鶴工業高等専門学校 外部評価委員会  
外部評価委員の指摘検討事項と対応状況

No	事項	対応状況	担当部署
1	中学校としては、生徒が進路を決定するにあたり、高専の情報を進路セミナーや説明会などで説明しているところであるが、最近、府立高校の普通科志向が高まっていると認識しており、高専におかれては早い段階から理科好きの生徒を育てるための手助けをしてほしい	本校では、早い段階からの理科好きの児童生徒を育てるため、出前授業や公開講座の実施に取り組んでいる。※令和3年度実績 ○出前授業 ギガスクールが定着し、小学校からプログラミング教育に対する専門的な知識が要望されていることを受けて、令和3年度は8件の出前授業を実施している。 (6/18朝来小、7/8若浦中3年、7/15成和中2年、10/26大浦小、12/20余内小5年生、2/25中舞鶴小6年生、3/10若浦中、3/16中舞鶴小5年生) また、新しい取り組みとして出前授業「あやべ理工系こはじめ教室」も実施している。 ○公開講座 小中学生を対象とする公開講座では、専門学科の教員が講師として開催する工学系の講座のほか、自然科学部門の一般科目担当教員による数学や物理をテーマとした公開講座を開催している。 ・7/17 遊んで、学ぶ。不思議なバズルとフィボナッチ数列 ・11/6 遊んで、学ぶ。太陽を観察しよう (R3新規開設) ・11/14 カレンダーと数学 (R3新規開設) ・11/14 折り紙と数学 (R3新規開設) ・11/20 遊んで、学ぶ。いろんな計算機で平方根を計算しよう ・11/28 作って学ぼう！～ストロー多面体～ (R3新規開設) ・3/20 数式展覧会 (R3新規開設) ・3/26 先どりサイエンス教室 光でみる実験 ・3/27 先どりサイエンス教室 光をみる実験	入試広報部会 地域共同テクノセンター
2	志願者増に繋げるためには、低学年の段階から理工系に興味のある子どもを育てていくこと、また、大学のオープンキャンパスでも同様であるが、親の参加者に対して、学校の生活環境や教育寮としての生活や整備状況を説明するなどPR活動を行うことが重要である	・低学年のころから理工系に興味を持ってもらえるように、出前授業「あやべ理工系こはじめ教室」を実施している。 ・学校説明会、オープンキャンパス、入試説明会などにおいて、生徒や保護者に対して学校のことを知ってもらえるように説明とともに寮見学を含む学校見学を実施している。 ・舞鶴高専のYouTube公式チャンネルに学校紹介動画を掲載している。令和4年度は新たに学校紹介パノラマのページを設置した。学校の生活環境や寮の様子を閲覧することができる。	入試広報部会 広報委員会・HP部会
3	舞鶴高専の卒業生で地域の中心となって活躍する方を取材したことがあり、多方面で活躍する卒業生を特集した広報活動を行ってはどうか、舞鶴高専を卒業すればどのような未来を描けるのかイメージしやすくなることで、高専を目指す生徒が増えるのではないかと	・本校卒業生の活躍を紹介する印刷物を作成し、入試説明会等で配布した。 ・中学校に出向いての学校説明会等で、学校紹介とともにスライドで提示している。 ・卒業生からのメッセージを記載した「学校案内」を本校ホームページに掲載している。 ・卒業生を特集した特設ページの設置を含めて、学内担当部署において検討を進める予定としている。	入試広報部会 広報委員会・HP部会
4	遠方からの入学を検討している親は、舞鶴市自体がどういふところか紹介してもらえれば不安が減るのではないかと	・本校の教育活動の目玉として、地域の課題を解決するという目標としている。その活動報告として、本校ホームページ等で学生の教育活動の報告を行っており、保護者の目にはそれらを通じて舞鶴市の理解が深まっていると考えている。	入試広報部会 広報委員会・HP部会
5	高専ではインターンシップ参加が大切と考えており、短期間だけではなく長期間のインターンシップが実施できればよいのではないかと	・本科においては、長期インターンシップはカリキュラム上、困難であり、最大2週間の実施としている。また、就職希望の学生のほとんどがインターンシップの参加を希望し、実際に多くの学生が参加している。 ・専攻科においては、現状ではインターンシップは夏季休業期間に参加することを想定しており、それ以上の期間での参加は難しい。専攻科の単位認定されるインターンシップは2週間の参加としているが、2週間以上の長期でインターンシップを受け入れ可能な企業も少ない状況があり、これまで1機関で2週間としていたところを、複数機関での合計で2週間でも単位認定することとし、インターンに参加しやすい環境を整えた。	教務委員会 専攻科委員会
6	教員数の減少にともない、教員一人あたりの負担が大きくなっている可能性があり、IT技術を用いたデジタルキャンパス化を進めて業務効率化を図り、教員負担を減らす取り組みを進めてほしい	・令和3年度より SharePoint を利用して本格的に出欠管理システムを導入しており、学生の出欠状況を把握しやすくなった。欠席学生およびメールを登録している保護者には、欠席時にメールを自動送信している。 ・学生情報の一部は、サーバ上で閲覧可能になるようにした。 ・遠隔授業を経験したことにより、動画や資料を LMS 上に公開するなど、積極的に利用するようになった。 ・各授業において、授業資料の配布やレポートなどの課題提出などに LMS を活用している。	教務委員会 専攻科委員会
7	学生に対してSDGsの達成目標や意義を伝えていくため、カリキュラムを含めた学生指導の中にSDGsの観点を取り入れていくことを検討してほしい	・特別研究・特別研究基礎において研究テーマとSDGsとの関連を意識して取り組めるようにすることを今後検討する。 ・令和3年度初めて開催した小中学生対象の舞鶴高専杯プログラミングコンテストにおいては、アイデア部門として、プログラミングやICTの技術を使って地域貢献やSDGsの目標を達成するためのアイデアを募集した。小中学生から18作品の応募があった。令和4年度は新たに地元企業2社の協力を得て継続開催した。	教務委員会 学生委員会 専攻科委員会 地域共同テクノセンター
8	在校生の親から受験生の親に向けた入試広報用のメッセージを作ってはどうか	・卒業生および在学生保護者のコメント等を掲載したチラシを作成した。卒業生においては、就職先や進学先での様子がわかるような写真を掲載している。夏休み明けからの入試広報イベントで、チラシを配布している。また、説明会でのプレゼン資料に掲載し、本校の魅力を伝えることに役立っている。	入試広報部会 広報委員会・HP部会